第四節　第七十九師團の狀況

第一　昭和二十年六月頃迄の狀況

一、常駐配置

師團司令部
師團通信隊
歩兵第二九〇聯隊
歩兵第二九一聯隊
歩兵第二九二聯隊
輜重兵第二九聯隊
山砲兵第二九聯隊
騎兵第二九聯隊
獸醫隊　病馬廠
兵器勤務隊

羅南

歩兵第二九〇聯隊
工兵第七九聯隊　會寧

輜重兵第二九聯隊ハ鏡城（羅南管内四所）
79Tは羅南師團ト和訓締制定ヲ行ヒ羅南ニ配置セラル

註　BAは二六隊締制

二、作戰準備狀況

作戰計畫

昭和二十年五月十日開戰第三軍司令官ハ幕僚ヲ帶同、朱乙湾（羅南南方八粁）ニ赴キ第七九師團長、羅南師團司令官

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

羅津要塞司令官、社に三の築城隊、混成第一旅隊長も同地に非式に會同し第三軍作戦計画の大綱、主威北部防衛配備の概要、社に傳達し第三軍隷下に入るべき旨を通ず

此の際師団は当分現駐地に在り第三軍社に四個師団の築城作業を援助すべき旨を示さる

第三軍の要請により同軍隷下第一三七師団の築城援助の為一作業隊（団下歩兵各隊より集合の約二〇〇名）を図們に派遣す

2 築城

六月末第三軍の隷下に入り同時軍命令により一支隊（79Kを基幹とし平/27/6 9/79BA 6/79P を属す）を編成し古茂山に派遣す同支隊は傳令軍直と共に予定なり

(1) 双図は五月二〇日他師団が實施中なりし築城の中九記範囲を担任實施する如く示さる（109Dに派遣の作業隊は後帰）

A地区（雲西務之、月峰山、訓戒、附近）

1494

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

B地区（南陽南方高地、豊刈、回們西南方高地）

C地区（蒼坪附近）

D地区（三東洞、夏地坪附近高地）

(ロ) 師団は築城作業本部及地区作業隊を区分編成し各区分に従い所要の幹部を現地に派遣し従前の作業隊の作業の引継ぎを行うと共に全面的築城準備に着手す

師団築城作業本部（参謀長を長とし各部部員、工兵隊長山砲兵第五隊長その他所要の幹部を以て編成）は回們に位置し師団築城全般の指導、築城器材資材の蒐集整備及び弾薬糧秣の集積等万事に関する諸業務を掌握す

(ハ) 地区作業隊の区分左の如し

A地区作業隊　長歩二九一長　本部は雲陽　1/29 DTL 6BA 2P 2T

B地区作業隊　長歩二九長　本部は南陽　2/29 IBA(一2) 1P

C地区作業隊　長砲二五長　本部は鐘城　1/29 2/29 BA

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

註 国家保安隊 ~~[illegible]~~ 陸上自衛隊

0636

D地区作業隊　　長崎県長　李部長鐘城

(ロ) 798A　李部隊は滝岡に住宅し、R隊長は各地区配属のA陣地構築を指導し、R隊は待機す

(ハ) 資材糧秣等の補給地を慶南(A地区)回倒(D地区部、B地区)豊利(B地区)滝岡(CD地区)に設置し、鐘城部隊部員は各地区に配置す

DTLは回倒に住宅し各地区との通信に任ず

T主力は回倒に住宅し主として B地区の補給線に当る

T長は補給地(各地区)作業隊本部間の輸送全般を統轄す

各器材部隊は各地区に分属築城器材の修理整備に当る

(ホ) 六月下旬師団主力は第11号演習参加により秘密裡に徒歩行軍を以て逐次北鮮に移動し、七月上旬夫々各地区に到り予の偽装陣地を構築する所に居住を開始し築城作業を実施す　第一二七師団より引継ぎし鮮人地方土工(動員者)は主として A、C地区作業に使役す

部長として滝岡及鐘城西方回倒江に潜伏陣地を設備する

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

D班北鮮移動に当り師団司令部及各部隊の一部は原駐地に残し新編1370其他の編成業務の補給に任ず

3 後方(兵站)準備

彈薬は師団移動に伴り各人の装備、行李段列輜重兵の二分の一及輜重の二分の一を現地に携行す

糧秣は常時二月分を先つ補給地及各要地に集積すると共に常時二月分を先つ補給地及各要地に集積すると共に

被服は季節用のものを着用し先季用のものを先つ後方に集積すると共に後方に集積す

4. 通信 師団司令部とA、C、D地区間は師団無線及地方通信線の利用に依り、B地区は[illegible]とは有線電話により施設す

5. 後方病院

衛生隊は後方の通過と衛戍地に於ける病院の収容に努む

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

註 羅南部隊は国境警備隊 会寧部隊は三上山陸軍

0638

六月二十日以降師団の補充班化は羅南師管区となり

四月一日より六月中旬に亘り国下各隊を野営地に到らしめ訓練を実施せしめたり

六月に入り東に国境の警備を以て各隊は野営地の訓練に出発せるも情勢の変化により南部の部隊は訓練を中止し直ちに帰営し北鮮に出発せり

三、編制 装備の変動

イ、部隊の復帰（動員）編制改正復帰

昭和十九年十月三日第十九師団動員下令と共に留守第十九師団編成され之が要員は第二師管区より充足さる

昭和二十年三月吉日留守第十九師団を改編し第七十九師団となる、定員は充足す 現役35% 予備役50% 鮮人15%なり

四月三日羅南師管区の編制改正し又大邱師管区要員の一部を転属せしむ

五月一日 208名の編制を拡大（178名に於て審査）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

又は兵器　各隊共にその定数を定員に充足しあり

補充は一部に止まれり

第二、開始後軍隊動員の経過（昭和二十年六月末より蘇聯）

一、配置又は配備の変更

師団は所属師団の計画に基づき陣地に割り込みを踏襲し要塞地帯の関係上根本的配備の変更を見たりしも部隊には後送の結果変更せし所動かず

師団司令部は八月下旬図門に移動し同地国境警備に任ずる

二、作戦準備

イ、防衛方針が新機械化部隊の急襲突破の阻止を主義とする旨を強く示されたる関係上各部隊配備は主として陣地構築の順序等に変更を生じたり

八月中旬師団陣地内にある東寧重砲隊（兵）は主として重砲兵の第三隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（註）
1. 陣A地区陣地は主力に比し西面過広縦深にして脆弱
2. 1120は主の方を内線に配置し防禦強大なり
3. B.D陣は陣地の主作にして強大
4. 主陣地は脆弱

防御陣地師団に配属せしめらるべき旨の内命に接し西隊と現地に於て動員の協定を遂行し重砲兵の射撃（集中）準備の変更を実施す

3. 陣地 主要西方の1120主陣地に連なる師団A地区陣地及上三峯西方の1120に連るB地区陣地は其の主陣地（註）なる旨の陣地の指示に基き師団戦闘指揮所施設を西隊に準備構築するを、し、新に左の如く作業班を編成し作業の準備に着手せしむ

第一指揮所（A地区内）作業隊　長DTL長　DTL、鋼索隊1コ
第二指揮所（D地区内）作業班　長3P長　3P（浅野要塞長）

七月下旬三上山陣地陣地（会寧東方）に築城用木材を搬取の為DTL長を裁木隊長とし別の主力を新に充て又三上山1会寧駅間の道路修理の為T中隊を充当し作業を開始す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

95

0641

しては西部孫呉に不級
底の陣地たり

5.

5. 教育、訓練

防禦戦技中 対戦車戦、手榴弾投擲法、個人毒の技能
練年の目的をもって分隊内に教育隊を編成
し選抜隊、以下二十名を以て特別の教
育を施す

期日 自七月中旬 至九月中旬 約一〇〇日

教員 約三〇〇〇名（歩兵の他兵種）

教育員 毎日約二五〇の専門員を各地区より教育隊に派遣
し同隊に前記三隊目を編成教育せしむ

教育隊の長、第二五〇隊司令に於て担任す

三、編制装備

七月中旬第一二七師団の編成を担任し又第三九師団
及ビ一二一師団を編成す

七月中旬 満洲地隊（約六〇〇名）を師団に増加配属せしめる、合計

1501

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

来之至、歩兵二名に警戒す

七月下旬 地方土工を使役する茂山附近屋面輸送隊の指導援助の為工兵第七大隊の主力を茂山に派遣す

師団衛生隊は野戰病院は未編成せられず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三 對蘇作戰實行期の狀況

一、蘇聯參戰直前の態勢　昭和廿年八月

イ、兵力配置　要圖第一のごし

ロ、戰力狀況　師團各隊の幹部以下は第十九師團從來の徵募力已たる宮城、福島、新潟の三縣出身者を充當せる外國籍上有利の狀況にあり又師團の編成が他兵團に比し早きし為（昭和十九年十月第廿九師團として又裝置）素質他に比し一般に良好特に機械の素質は第十九師團に比し遜色なき程度を保持し加うるに兵器補充完全に充當せ裝備は十分の為師團の戰力狀況は優良なりしものと認む

（士氣一般に盛旺）

3、作戰準備の程度

第一線は九月末迄に目途に第二線は一応完成に近きものありしも資材特に セメントの入手困難なりしため完成せず

1503

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一八〇二のトーチカ完成せし程なり

六、蘇聯参戦当時の情況 ~~[illegible]~~

八日午前第一三七師団の編成完結 師団長は参謀長部長

等と共に当日羅南に出張 13ヲ長及その幕僚と會す

師団長は参謀長を帯び八日午羅南出発 九日会寧に赴き

師団司令部を視察 八日蒼坪地区作業状況を視察 九日蒼坪

に宿営す 独ソ緊張を聞く 噂り来り

九日 図們師団司令部より蘇軍が八日独ソ戦争勃発

空挺 鮮内に侵攻せる旨の電話に接し A.B地区の視察

を中止し各壕図們に帰着し各地区は現勢力の儘

警備 防衛の行動に移る如く厳重す

九日 独ソ軍令を受領し各師団令を下達す

宣戦書類 撤収せの如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

○八日敵半蘇軍は各方面より一斉に鮮満国境に進攻す

○軍は現陣地を補強し敵の進攻を阻止す

○古茂山支隊は爾今軍の主軸となりその捜索隊主力は羅津方面に進出し敵情捜索に任ず

○東寧重砲聯隊の主力及重砲兵第三聯隊は師団に配属せらる

○茂山附近軍主築城(整備の)を指導援助の為派遣中の工兵聯隊主力は師団に復帰せしめらる

○師団は警戒部隊及向地偵察班並に捜索の為の部隊を派遣す 最寄りの警察部との連絡情報を派遣す

○A地区隊長に命じ慶源及訓戒の国境江永久橋並に鉄道橋を爆破せしむ

○羅南機関の師団部隊を挙げて防御陣地に配置す 金策

○三上山伐木隊を師団に復帰せしむ 明日既に技術所要員を派遣中 なりしDTL制毒隊をA地区より配置す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

。地区作業隊を地区隊とし陣は防衛戦に移り得るの準備を整ふると共に必要の應急築城を速かに完成せしむ

。C地区作業隊を基幹支隊とし師団長の直轄とす

三面後の戰斗経過

十日

当面の敵の行動は緩にして霞は日暮時正面は稍々活潑化せり。A地区戦斗指揮所を雲霧峯より月山に移動する如く命ず。十二日参謀長は軍司令部に到り一般の状況を聽取す

喜多隊、訓戒指導の爆破不能なりしに鑑みしも工兵隊長に命じ再爆破を命ず　十二日二時に完了す

十三日参謀長はA地区に到り当面の敵情並に地区の防衛態勢を視察す　この日各地に派遣しありし工兵隊、伐木隊、最南今西隊第一部隊等は撤収各地区に夫々帰還す　この日琿春附近の1120部隊は琿春西方の主陣地に撤退し南の一部は訓戒指導の北岸附近に進出す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

註 ~~飛行機~~ 偵察機 不明

五家子 ~~十時~~ 12月の 聯隊は 敵と激戦中なり

雄基方面には 約一旅団の敵 近づきつつとの報あり。既に

10ヶと連絡の為派遣せし 偵察隊 不明なり 帰ず 敵方面

の情況 確実なる

十四日 輝南飛行場附近には 有力なる敵進出し 撤飛行

場には 偵察機 戦機 着陸するに至る

輝南には 戦車を有する 有力なる敵集結せり

十五日 戦車十数輌を伴う約一大隊の敵 雄基洞(訓戒)

附近より 1120 陣地を攻撃し来りしも 我砲撃により 戦車八輌

撃破せしめられ 敵撃退す

若干の敵の一部は 訓戒大橋附近の我警戒部隊を襲

逐し 図門に 指向せんとす

図門は午後一時頃 敵機 戦機の爆撃を受く 美濃宣点は

停車場にして 目標に 停車中の 軍用貨車の 砲弾の誘発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を惹起し断続爆発三時頃全に及び破片市内に飛散す住民の多数は市外に避難せるもの多く混乱はなお継続

動かりしし停車場一帯は防空壕内等にて相当の混乱を惹起す 同時同側北方三粁の軍補給廠は揮発油爆発

し黒煙天を覆ひつつの観あり

電々支店長より重大放送の内容につき参謀長に連絡あり

参謀長は師団長に意見を具申し二ルを司令部下に報告する如く

處置す

師団司令部指揮所を南陽十粁の地に移動す

この日有力なる敵軍部隊は注信方面に侵入せりとの情報を得

軍命令により山砲一中隊を開島に派遣す

師団後方の危険を顧慮し同側北方火薬庫の爆破を準備す

五家子部隊の一部(五家子に帰着不能の為A地点291長の指揮に

入らしむ)

(警備隊により掩護し来り)

同側南陽間の鉄道橋の警戒防禦に任せし第南師団部隊中隊

(所8)を併せ指揮す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十六日 戰車二〇—三〇輛を有する有力なる敵A地点馬乳山（訓戎西方）陣地を攻撃し来るの報に接し列車により五ツ子三中隊を訓戎方面に派遣し訓戎—稜城—回門道及訓戎—回門間の鉄道等の要点を破壊し随所に敵機甲部隊を攻撃すべく命じ出発せしむ 同隊は黄波の鉄道橋を破壊し主力は稜城に集結する旨報告し来る 鉄道線路を破壊して宿営せしむ 軍司令部は

B地点隊長に命じ防衛の重点を豊納方面に保持し且つ敵戰車大砲の主力を豊納附近に配置せしむ

120は全面的に敵の攻撃を受けある旨及左翼江口司令部に派遣せし連絡将校の報告により明かなり

兵器部長に命じ爆薬地雷及爆薬を製作し

強理部長をして回門以南の地方糧秣（特に作戰用）

列車により回門に輸送集積せしむ

軍医部をして繃帶所を回門に開設せしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同日夕報機甲部隊、海南島附近に迂回せるの報に接したるの如く
厦門を
B地区の II/289 1/3 3BA P一は 同側 林岸 同側一海南島間に配置し
(1120 作戦地域)
機甲部隊の厦門方面突出を阻止する為現陣地を御し南
陽に集結せしむる如く厦門を
又砲兵の大隊を同側に移して同地の陣地を固めしむ
この夜厦門に対する歩兵各隊の陣地を焼却す尚 舟艇 積極
的の戦闘を続くる如く準備せらる
十七日 早朝敵機械化師団 南島一同側道を突破し来る
同側北方陣地を爆破する為戦車自走砲の大隊の道路上に
停止し同主砲の射程下に敵を待撃破すし来る
II/289 1/3 3BA P一は午前四時頃南陽に集結したるし 午前八時 食
南陽北岸に配置し前進せしめる
又砲兵隊の大隊を掩護隊とし P一大隊を派遣し同側一南陽

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

鉄道線上回們北方八キロの鉄橋を爆破せしむ

A地区馬乳山附近は戦斗継続中なるも陣地不明

午前七時過き停戦に関する軍命令を受領し各地区に之を傳達すると共に各地区毎に集結準備の準備を命ず

A地区ー麝香

B地区ー南陽

C、D地区ー鍾城

BA本部附近ー慣園　P水口浦　下方　回們西方三陽岩

東寧FeA　A　3/2Aは其の陣地

回們にありし諸隊（又之部及、新毒隊、兵器勤務隊の一部）御幣所PDは南陽に後退し回們、南陽間の永久陣地を守備せしむ

只彼我接触

A地区馬乳山附近の戦斗に於ける我戦死傷は以下の如し

回們に於ける我接触戦は略々十と推定する

註　戦斗の報告簡略　戦斗部隊は傷者捕虜等に収容せられ別行動をとりし為詳細不明

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、統戰はの情況

イ、態勢並戰力　戰斗はA地區　馬乳山附近部隊に限定せらる

（回們部隊は南陽及回們西方に後退せしと敵の追撃結果し居る戰斗に移らず）他の師團主力は敵を見すして停戰

に移りしを以て殆と混乱きく戰力恢復せる狀態に於て

戰斗行動を停止す

ロ、蘇軍との交戰　正午過き參謀長　高級參謀　通訳

將校　は　回們に移り右翼ノ蘇軍師團長と會見し

左の如く交換成立す

(イ) 日蘇兩師團は直ちに戰斗行動を停止す

(ロ) 回們の蘇軍は回們に於ける南陽に於ける

(ハ) 790　司令部及直轄部隊　本日中に回們　指定停車場に到り

武装解除

(ニ) 師團の他部隊は十八、九日間に回們停車場前に到り武

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

紫鵬隊

参謀長及西沢特務はその後柳園に於て師団長に報告し諸隊を回們に集結せしむる如く厚量すせしめらる

3、爾後の推移

師団司令部及西孫諸部隊は十七日夕刻回們に於て武装解除す

物馬廠長他下士官一名自殺す

この夜東安市砲兵隊は解隊長以下殆んど全員砲側に於て火砲と共に自殺す

諸隊の集結の命令徹底を欠く虞ありしを以て左の如く修正し伝達せしむ

修正

回們集結の命令と共に回們に集結を

付記

回。南陽ー鏡城迄の各号・各隊

○回們ー穆城ー蒼坪迄上の各号各隊

○回們ー穆城ー慶源迄上の各号各隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

註 橋本中尉は部隊附の部下と共に負傷者を要行する旨報告し上官の指揮上皆殺せらる

0654

○回們―三陽谷―回們江左岸―鏡城等の各兵各隊

工兵隊長は本部修橋場 水に陸に於て自爆す

工兵第三中隊長以下中隊の主力 三陽谷西方師團戰車搭乘所等

地に於て自爆す

諸隊は朝鮮人自身の為に離隊せるもの多く他は部隊毎に大、小

九隊に分り回們に集り武器を解除す

各隊共金の徹底を欠くもの又は言による離隊者相当数に

上る 師團司令部 橋本中尉 [illegible] 大和中尉 [illegible] 杉本軍医大尉 [illegible]

各隊 (後日 [illegible] 茂山に於て殺害) (師管区部隊門司を出発)

に於て殺せられしものも多し」

7/29 長谷川大尉以下約一二〇(馬乳山附近に於て部隊の

離隊の命令により)耶麦に於て殺害せらる (負傷者は敦化に)

師團修橋班七名は二十四日草により間島に移動せしめらる

(負傷者(自殺)は北に於ていしし)

負傷者は敦化に

1514

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

兵及一部将校は結局行軍により二十日三主口附近に至り国側より同
島に移動 将校とは別に収容せらる
間島収容所には逐次第三軍関係各部隊、四平師管区諸部隊
撤収に伴動旅団の一部等収容せられ九月末まで同地にあり
十月初旬将校の第一陣約二千は新京経由 敦賀ダンポウ部
外ラーダに第二陣約二千は 羅南 ポクラスキノ、ハバロフスク
経由ラーダに輸送せらる
兵は約一千名宛（建制を破壊し各人の名簿提出の撤収部隊）
分働大隊に編制せられ将校勤務者は幹部に充てられ逐次
行軍により他方面に輸送せらる
ラーダ収容所には将校以下及一部文官等約七千五百、あり
昭和二十一年七月四陣団と共に多くハバロフスク（第九七）収容所
に移動同地にありし約二千の将校及文官と合体AB二収容所
に収容せられ 約六〇〇は二十二年十月～十一月 日本に帰国

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

約一〇〇〇は カサンに移動 二十三年五月に、約一六〇〇は同年七月に夫々日本に帰国 約三〇は七月ハバロフスクに移動收容せらる（六十三地区第十四分所）

第四 其他

一、左翼邦人。師団守備地区内の左翼邦人は其の大部分軍と共に攻囲始の日より陣容に編成南方面に引き上げ一部は同側内南方面に更に他の一部は陽泉の北方（三陽谷）陣地に最も多し）に移動す 八月十六十七日頃には一部北方の男の外 同側南陽 穆城 訓戒慶 孝陣地附近には所在せず

二、師団関係の家族は会寧羅南にありしか 会寧部隊の家族は其の大部分は地を離し八月末内地に帰国し一部は北に捕虜となり所在不明と共に自殺す

羅南にありしものは師団司令部の家族と共に 惠山鎮に移動白岩に於て軍に協力せら水豆 興ノ に収容せられ二十三年五月以

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸軍部隊に引き内地に帰還せしめしものの如く、この頃病殺せしものなり

開拓団は師団作戦地域内にはなし（大部分が解散せしため）

二、満人鮮人も共に作戦地域内のものは極めて手薄にして特

記すべきなし

第五 戦訓

一、少軍の戦法 砲兵力の威力に依存し、之を以て攻撃の

陣の後先前進する。他の兵種に影響あり

二、少軍幹部以下の素質 智能的の行動は劣悪なるも国共共

産に対へ労を高とせる点は寧ろ驚嘆に値するものあり

軍紀は良好に保持せられあるものと認む

士気 士気保持は極めて良好なり（最高幹部のみ知りて他には行動の直前まで知らしめざるに基因するか）

行動の鈍重なるは前記 行動直前迄準備時間の命令を出せざ

註△ 対北鮮陸後五の部隊を見たるも屋内にのみ食糧を出さずよく軍紀毎にまとまりて露営せり

0657

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

るにも甚困すへけれと在端に鈍重なり

特部隊に隊員(大佐)級以下の風格、能力等は甚しく劣

悪の如く散漫なり　士官以上は軟弱に見受けたり

三、陸軍の兵器資材は直接戦斗に関係ある兵器は豊富

に装備せられあるも否らざる資材被服等は極めて不良

不十分なり　即ち従来の主要目的使用の結果か

四、前項の如く直接戦斗に関係ある兵器を装備する為他の資

材被服等は最少限に装備すへき なり

我が個人装備は余りに過多鈍重なり

自動車類を更に多く装備すへきなり

総監官の権限大に過ぎ　これ兵器関係の事務の重点

的使用に支障を来たせし原因と認む

命令等の形式を整ふる余りに力を用ふることあらざるか　隊員

一命令の如きしい字に於ては於人と仮部か同意(口伝直接の)によるを多く

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

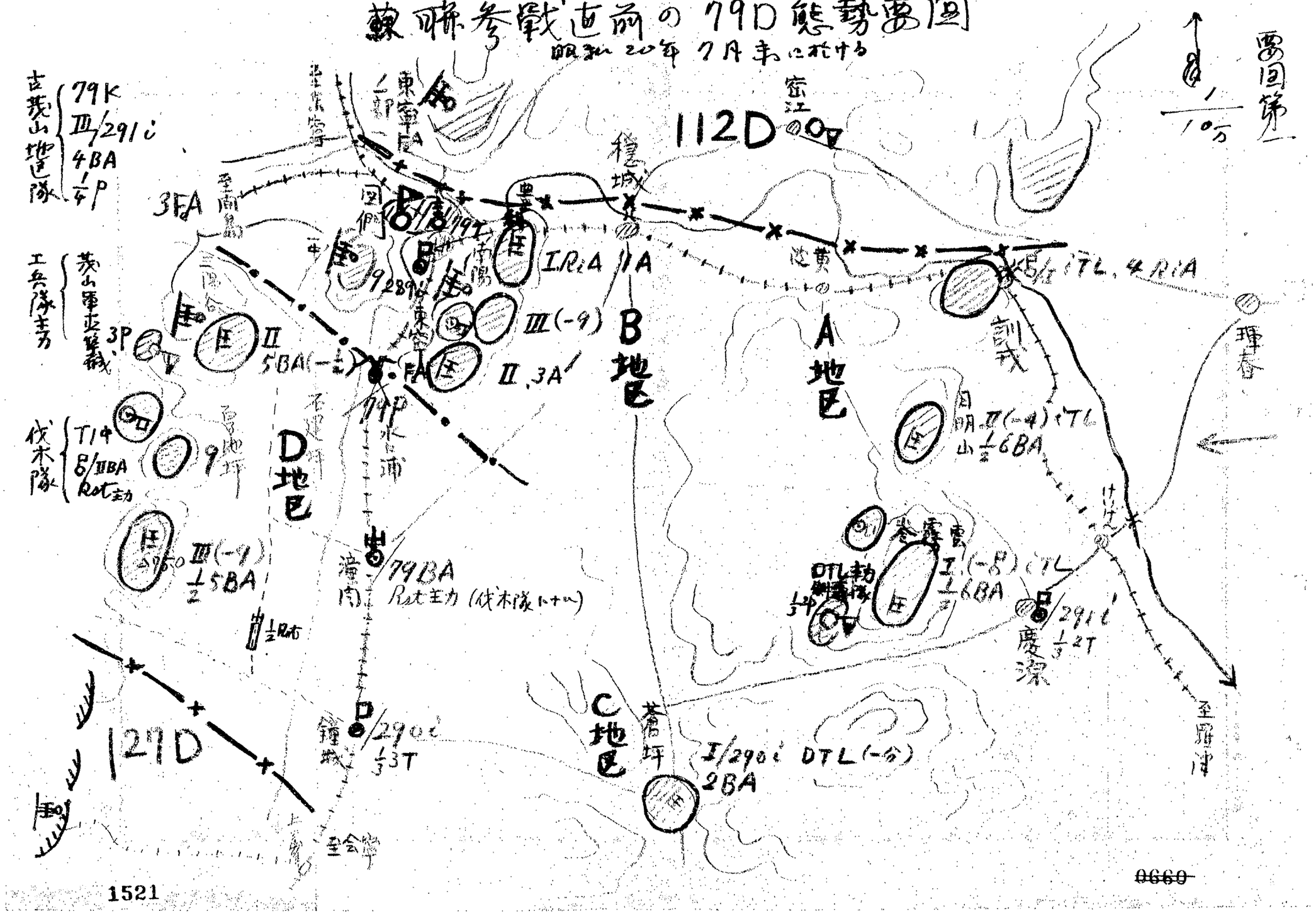
解文の幣ヲ以テ安陸隆的より

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

興城攻戦直前の79D態勢要図

昭和20年7月末に於ける

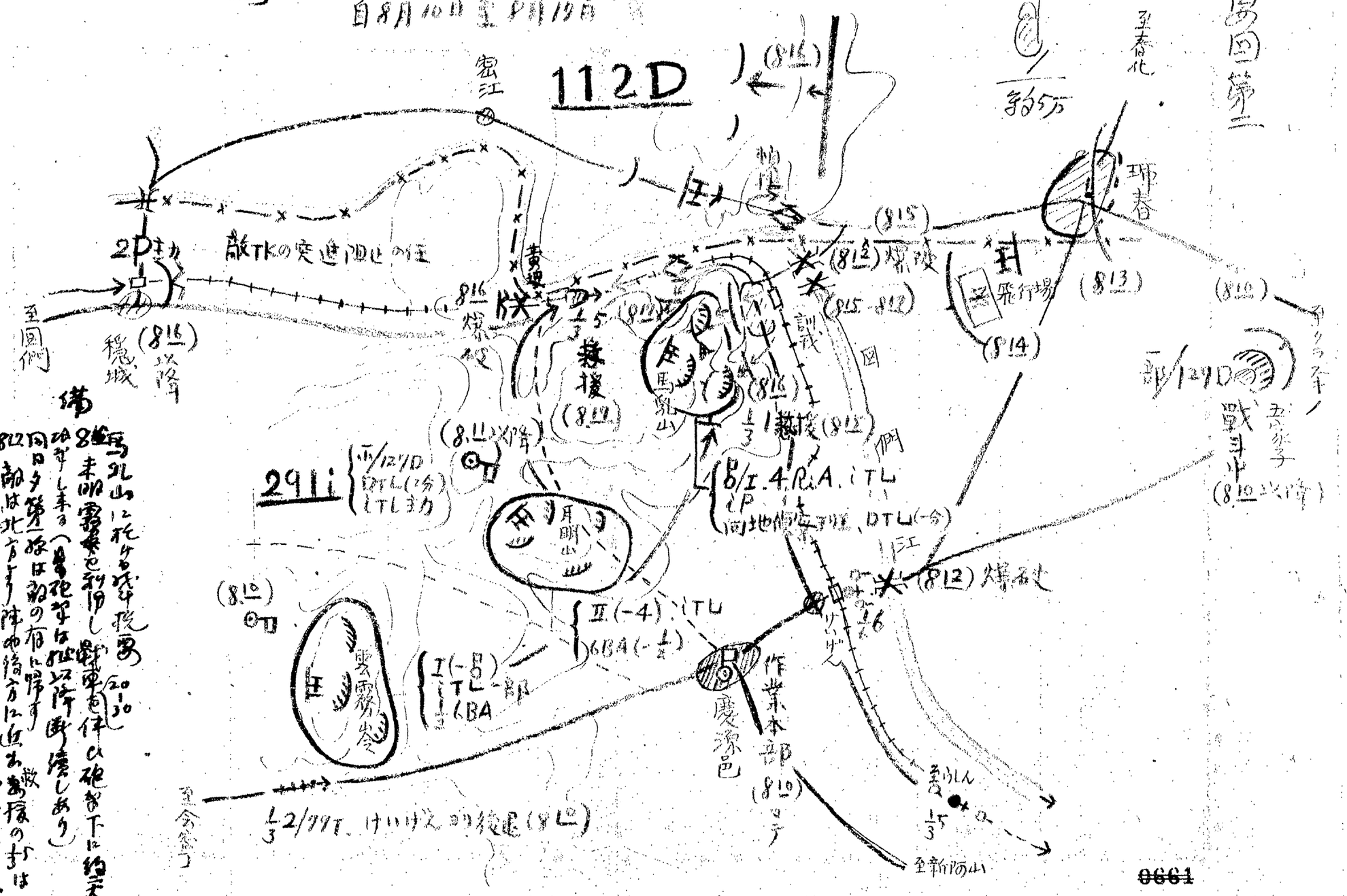


0660

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

馬乳山附近 291i 戦斗経過要図

自8月10日至8月19日



備考

8/15 馬乳山に於ける戦斗概要 20.1.30

未明霧峯を利用し戦車を伴い花谷下に約大隊

攻撃し来る（曹花谷は8/12以降断続しあり）

図中タ第一隊は翌の有に帰す

8/12 部は北方より陣地後方に迂回し救援の為は

次と合流す

戦況 上記の如く神山部隊

0661

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp